

日常異変 コロナの私 (11)

コロナが暴いた課題と闘う日々

テレワークで時間に余裕？

いえいえ、むしろ、より一層、社畜…いえ、多忙な状態でございます（個人の意見です）。

わたしの所属する会社も働き方改革で昨年から東京五輪に向け、週1、2回のテレワークが活発になったのですが、社の方針で「Stay Home」となった4月以降、通勤不要なので朝7時から仕事を始め、終電の縛りがないので夜中から明け方までとなくなってしまったのです（自己責任です）。

オフィスにいと、同僚の忙しさを感じて仕事の「依頼タイミング」を図ることもできましたが、テレワークですと他人の様子がわからないまま、メールとチャットで仕事の依頼をしてしまうものです。しかもコロナの影響で一気にお客様からの問合せが増え、それはもう、どんどんと仕事が溜まっていきます。しかし、仕事はその日のうちに片づけたいという思いから、仕事の時間が長くなってしまいました。

このような中、同僚の「みしゃしゃ」は、テキパキと押し寄せる仕事を捌いてくれていたのですが（感謝）、そんな彼女も新小学一年生の子を抱えながら、わたしと同じくらいに忙しくなってしまうという厳しい状況です。

それにしても去年までのテレワークは、いま振り返ってみると「ごっこ遊び」でした。スマホ片手に「布団の中でも仕事できるじゃん」と思っていました。しかし「Withコロナ」になって初めて、メリハリをつけて働く、ONとOFFの切り替えなど、真の働き方改革はそれぞれが考えて行動する時代なのだと、認識しました。

私の仕事は・・・

授業支援システムってご存じでしょうか。教員の授業運営を支援する Web システムで LMS (Learning Management System) と呼ばれており、事前・事後学習や授業で使う教材の配付、テスト、レポート回収、アンケートなどが、教員・学生とも PC やスマートフォンで行えるものです。

例えば、先生が「今日の宿題のレポートは、次回授業までに LMS で提出してください」、「小テストは LMS で次の授業までにやってください」などのように使うものです。多くの大学に導入されており、主に授業時間外の教員と学生のコミュニケーションツールとして使用されています。

この LMS、「Before コロナ」までは「LMS はあくまでも 快適に授業をする道具 LMS を使わないといけないわけではないぜ イェー」とオモチャ扱いでした。ところが、「With コロナ」となった今では「授業に必須の道具」となってしまいました（すいません、[And I Love Car]の歌詞をパクりました）。

これまで使っていなかった先生方が使い始めるわけですから、当然、使い方の問合せも急増したわけです。

弊社のシステムは業界トップではありませんが、給食甲子園で大変お世話になっている女子栄養大学様でも使っていていただき、私はその LMS のお客様担当 S E をしています。

→本会理事の香川学長様、何でもお申しつけください。

続々とオンライン授業始まる

4 月後半、各大学で遠隔授業が始まりました。1 時限目の開始 5 分前から LMS の利用者数が急増します。過去最大の利用者数に、システムはなんとか持ちこたえている状態…しかし 30 分後、学生の PC やスマホにはアクセス数過多のエラー画面が出るようになりました。

学生、教員、職員、営業、S E…関係者全員蒼白です。まるでチケット販売サイトのようにアクセスが殺到しています。すぐさま、状況分析をしてチューニング（リソースの割り当てを最適な状態に調整すること）を行います。そして再びサービス開始、しかしまたエラー…と、この繰り返しが延々と続くのです。

そもそも想定していない数の利用者が一斉に使うのですから、チューニングしたところで追いつかないのは明白なのですが、学生たちを救いたい一心で少しでも改善できればと、がんばります。

念のため書いておきますが、職員さんたちは乾いた雑巾をさらに絞るように知恵を絞って、利用制限をしたり、事前連絡で Zoom などのオンライン授業に誘導したり、等々、負荷の分散を図るため、ありとあらゆる工夫をしています。弊社もパートナーとして可能な限りの協力を惜しみません。

しかし、私たちの努力の甲斐もなく、システムは停止し、Twitter では何度も「ログインできない、授業受けられない #コースパワー」などつつぶやかれ、不名誉なトレンド入りをしてしまいました。しつこいですが、電車に例えると、「140 人定員の電車に 700 人乗っている」乗車率 500%状態なのですからまともに動くはずありません（とはいえ、200%なら遅いけど動くのですが…）。もし、この 5 倍以上のアクセス集中状態でも問題なく動作していたら、逆に「過剰な設備を買わせたな？」って怒られます。

そのような日が続きましたが、使う側もアクセス集中に慣れて回避するようになったのか、以前よりもアクセスが分散するようになってきました。

そしてわたしも、労基法の残業時間上限をオーバーし、強制的な休暇取得や残業禁止になってしまいました。医療関係者の方々もきっとこのような日々を送っているのでしょう。



自宅とは思えないオフィス環境になってしまいました

教育政策について

文科省はコロナ対策で「大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保」として 27 億円を国に申請して 4 月 30 日に認

められました。現在(6/14)は、学校から提出された補助金申請内容の審査中でしょうか。執行できるのが7月だとして、学生たちに政策が届くのは、後期(秋)以降になりそうです(すでに対策実施済でも申請できますが、交付を待ってから調達に入る学校も多いようです)。早急な対応、とは言えないですね。

将来のネット社会を見据え、もう少し遠隔授業についても予算をつけて実施していれば、今回のコロナ騒動でも、慌てずに通常の授業運営ができたのではないかと思います。

日本は技術的に進んでいますが、保守的な国民性、雇用の保証、利権などさまざまな理由で、国民はその技術の恩恵を得られていません。10万円の特別給付金でも話題になったマイナンバーばかり。個人情報・プライバシー保護が…と法案は骨抜きにされ、施行後は、今回の騒動まで国民も興味を示さず普及もしないという状況は、非常に残念です。他国と比べると尚更です。

これらのような「After コロナ」の話や解決の方向性について、21世紀構想研究会で議論を重ね、政府や世の中にどんどん提言していけるといいですね。

反省と思索と祈りの日々・・・

緊急事態宣言も解除され、大学も対面授業再開を検討していますが、前期(春期)はこのままの遠隔授業主体のようです。その後は…

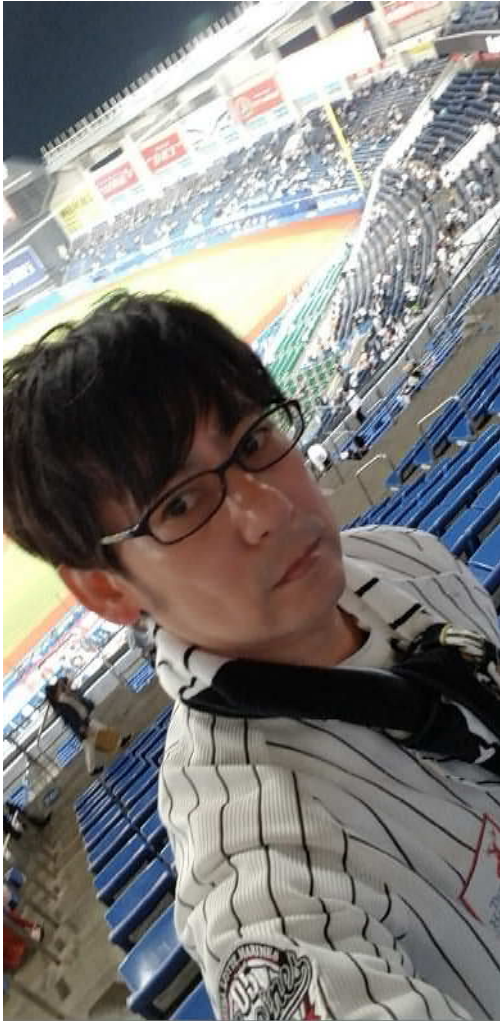
これからは、今回のようなことも想定したITインフラ整備を提案していければ、と思っています。

- 第二波がきませんように。
- 今の苦しい日々が続きませんように。
- そして、課題解決のための手を打っておくように。 ⇒ 自分への伝言！

最近社内体制も強化され、気持ちにも余裕が出てきました。忙しいときはあれこれやりたいことがあったのですが、いざ時間ができる、なかなか…そんなものですね。

とりあえず、居心地の良いテレワーク環境にするため、カフェのようなボサノバの途切れないオーディオシステムを作っています。

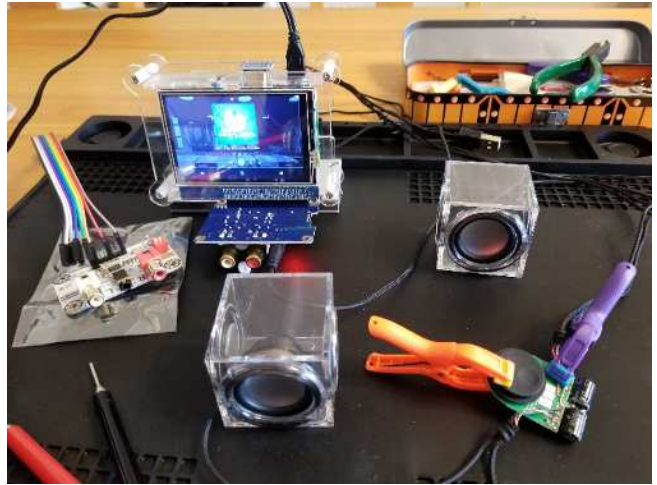
野球観戦にも行きたい！



息抜きは、プロ野球観戦。
今年も 30 ゲーム見られるだろうか？

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

渡辺康洋



居心地の良いテレワーク環境にするため、
ラズパイ+DAC の極小オーディオシステム
の製作に精を出しています。趣味と言われ
ればそうですが、オタクと言われればそう
かもしれません。